

式 辞

新居浜工業高等専門学校創立50周年記念式典に当たり、式辞を述べさせていただきます。

本日は、ご多用中のところ文部科学省審議官奈良様を始め、多くのご来賓の皆様のご臨席の下に、このように50周年記念式典を行うことができますことは新居浜高専の大きな慶びとするところであります。新居浜高専を代表して篤く御礼申し上げます。

昭和37年に創立された本校が、本日50周年を迎えることになりました。この間、本校の発展のためにご尽力いただきました関係各位に、心から敬意を表すとともに厚く御礼申し上げます。また、50周年を皆様と共に心より祝いたいと思います。

孔子の言葉を集めた論語に「古きを温(たず)ねて新しきを知る」という有名な一節があります。この「温故知新」は、過去の事例とそれに人々がいかに対処し、どのように推移したかをみることによって、これからの新しい事態にも対応すべき様々な知識や見解が得られるということを教えてくれています。この創立50周年式典と一連の記念事業がそのような役目の一端を果たしてくれることを期待しております。

日本のものづくり技術を支える創造的かつ実践的技術者の育成を使命として創設された高等専門学校制度は、大学での技術者養成とは全く異なった教育制度です。その特徴の一つは、中学校卒業後の頭の柔軟な頃から専門の勉強をするという早期教育であり、もう一つは途中で受験などがなくて落ち着いて勉強できる5年間一貫教育です。科学技術の進歩には、多様な発想が必要とされ、そのためには様々な教育背景を持った技術者が必要とされます。日本の多くの技術者が高等学校卒業後の大学の工学部で教育を受けていることを考えると、高専は技術者養成の貴重な別ルートを提供しています。すなわち、高専卒業者は一味違った発想をする技術者であることが期待されます。

新居浜高専は、高専としては全国に先駆け昭和37年(1962年)に創立され、これまでに、科学技術立国を標榜する日本の発展に必要とされる実践的技術者を6700人以上、世に送り出してきました。これらの卒業者は中核的技術者として日本の産業界を支えてきています。

50年の歴史を振り返るとき、この間の高専を取り巻く激しい社会の変化にも、関係する多くの諸先輩の適切な対応やご努力によって、新居浜高専は着実に発展してきたことが分かります。

初代の小藤甫校長は12年間の長きにわたり創設の任を務められ、今日の新居浜高専の基盤を作られました。当時作られた校歌の一節にある「叡知を磨き技を練り、われら新しき世の扉敲かん」という言葉が、新居浜高専の建学の精神を表しています。この「高度な理論を修得し、更に実践的技術を身に付けた上で、ともに新しい世の発展に尽くしていこう」という高い志は、今後も新居浜高専の伝統として引き継がれていくものと信じています。

創立当初、機械工学科、電気工学科及び工業化学科の3学科で発足しましたが、産業構造の変化による社会の要請を受けて、金属工学科と電子制御工学科の設置、あるいは改組等を行い、現在、機械工学科、電気情報工学科、電子制御工学科、生物応用化学科、環境材料工学科の5学科となっています。これに、数理科と一般教養科が加わり、図書館、学生相談室、高度技術教育研究センター、情報教育センター、あるいはものづくり教育支援センター・技術室などの教育支援体制の充実も図られてきました。

また、科学技術の高度化に対応するため、本科5年の上に2年間の専攻科が平成4年度に設置され、生産工学専攻と電子工学専攻の2専攻で発足しました。平成16年度には生産工学専攻の改組により、生物応用化学専攻が加わって、3専攻となっています。今では全ての国立高専に専攻科はありますが、その設置には本校第4代の小門純一校長の大変なご努力があり、全国の国立高専に先駆けて2高専に専攻科ができましたが、その1校が新居浜高専であります。

さらに、グローバル化に対応して、マレーシアを始めとしてアジア各国からの留学生の受け入れや、オーストラリアのサザンクロス大学や中国の重慶工業職業技術学院など海外の高等教育機関との学術交流協定の締結など、学生の国際性を高める制度も整ってきています。

一方、平成16年からは国立高専の全てが独立行政法人国立高等専門学校機構の下に連合して一つの法人格を持つことにより、各高等専門学校の充実と将来にわたっての持続的な発展を期することになりました。現在、スケールメリットを生かした機構の方針の下、各学校はそれぞれの理念と目標を持ち、自立と責任ある運営によって自らの発展を目指すことが求められています。

また、新居浜高専は地域に根ざした高等教育機関として、地域産業に有用な技術の開発や技術者の養成という重要な使命を担うことが期待されています。そのため時代と地域の要請に適切に応えていくことの責任も感じております。

今後の50年の科学技術や社会の変化は想像もできませんが、これまで社会情勢の激しい変化に適切に対応して高専を支え発展させていただいた多くの諸先輩の歴史を学ぶにつき、早期専門教育・一貫教育という優れた特徴を持つ実践的技術者養成の場としての高専制度と新居浜高専の更なる発展に向けての決意を新たにしているところであります。

本日はご列席いただきました皆様を始め関係する多くの方々に、今後とも新居浜高専へのご協力・ご支援を切にお願い致しまして式辞とさせていただきます。

平成24年4月21日

新居浜工業高等専門学校長

鈴木 幸一